 	訓高等専	門学校	開講年度	平成30年度 (2	2018年度)	授業科目	弾性力学			
科目基础			1 1/3013 1/30	1 (2			12,14223			
<u>17 口坐</u> 。 科目番号	~ II J T K	0139			科目区分	専門 / j	 巽択			
授業形態		授業								
開設学科				 fi入学者)	単位の種別と単位対象学年	· 短数 腹形单位: 1				
開設期		機械工字科(2018年度以削入字百) 後期			週時間数	2				
<del>    10    11    </del>	 π★★	15-77.75		書:村上敬宜,弾性;		4				
<u>教科書/教</u> 担当教員	X1VJ			百.79.11似丘,浑住。	刀士, 食貝王					
	.775	木原 茂	X							
到達目標	_									
1. 平面/ 2. 適合 3. エア	応力, 平面で 条件の必要! リーの応力!	ンずみを理 生を理解し 関数を活用	解できる. 任意方向 た上で, 応力場を求 して, 直交座標系と	の応力や釣り合い方 めることができる. 円筒座標系の2次元	程式を活用しての 応力場を求めるこ	応力場を求める とができる	ことができる			
ルーブリ	リック									
			理想的な到達し		標準的な到達レベルの目安		未到達レ/	未到達レベルの目安		
評価項目1			る. 任意方向の	でである。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	る.任意方向の	応力, 平面ひずみを理解でき 任意方向の応力や釣り合い方		平面応力, 平面ひずみを理解できない. 任意方向の応力や釣り合い方程式の意義を理解できない		
評価項目2			適合条件の必要	適合条件を活用 めることができ	目して,応力場を求 適合条件の意義を理解できない			できない		
評価項目3	3		エアリーの応力関数を活用してエアリーの応力関数を活用して、「直交座標系」、「直交座標系の1分」、「直交座標系の1分」、「直交座標系の1分」、「			関数を活用して 円筒座標系何れが を求めることが <sup>-</sup>	か エアリーの 応力場を対	の応力関数を 求めることが	活用しての できない	
学科の発	到達目標項	頁目との	 関係							
	育到達度目標									
教育方法										
<u> </u>	ᄭᅻ	m#+-	サニモニチェッカー+8	カフプロ エナため	だ 社製も単方字	羽士海宣史佐士	スマレニトハ	#### 十半个	宁美を回っ	
	め方・方法	プリン習を随	トを中心とし, 3、 所に取り入れること	のアプローチ法を学 4年および5年次前 により理解度の定着 演習も適時実施する。	期に受講の材料力 を図る. 弾性力学	学の教科書を適	官活用した講覧	を形式で進め	ると共に演	
注意点										
授業計画	画									
~~~~	Ī	週	授業内容			週ごとの到達目	  標			
		1週	弾性力学の概要,	応力テンソル		材料力学と弾性力学の違いを説明できる. 応力テンソ   ルを表現できる.				
		2週	垂直ひずみと変位	の関係. 演習		二次元場における垂直ひずみと変位の関係を理解できる				
		3週	せん断ひずみと変			二次元場におけるせん断ひずみと変位の関係を理解できる				
	3rdQ	4週	応力とひずみの関	係,平面応力.演習		三次元場と平面応力場における応力とひずみの関係を理解できる				
		5週	平面ひずみ	<b>幼仝八七祖子</b> 凌翦		平面ひずみ場における応力とひずみの関係を理解できる。 平面応力と平面ひずみを理解できる 二次元場の応力分布を予測することができる				
		6週		<u>釣合い方程式. 演習</u>		一八兀場の心儿	ルバルで丁刈り			
<b>後</b> 期		7週 8週	適合条件(ひずみ	友現)、海省		本人々 ル ~ ソ ・	144 + TO 47	7		
		I Valet		2007. 77.		適合条件の必要	性を理解でき	る		
後期		9週	後期中間試験 適合条件(応力表			適合条件を活用	することによ	_	問題の応力場	
後期			15-07-03-03-03-0	現). 演習		適合条件を活用を計算すること エアリーの応力	することによ ができる。 p関数を活用す	り、基本的なI ることにより		
後期		9週	適合条件(応力表エアリーの応力関	現). 演習	演習	適合条件を活用を計算すること	ますることによができる。 対できる。 関数を活用す 算することが 関数を活用す	り、基本的な! ることにより できる。 ることにより	、基本的な問	
後期	441-0	9週	適合条件(応力表エアリーの応力関エアリーの応力関	現). 演習		適合条件を活用を計算すること エアリーの応力 題の応力場を計	することによができる。 関数を活用す 算することが 関数を活用することが 関数を活用することが 関数を活用するこ	り、基本的なに ることによりできる。 ることにより とができる。 ることにより	)、基本的な問	
後期	4thQ	9週 10週 11週	適合条件(応力表エアリーの応力関エアリーの応力関	選別).演習 数(直交座標系) 数(直交座標系), 数(直交座標系),		適合条件を活用を計算すること エアリーの応力 題の応力場を計 エアリーの応力の問題の応力場	はなった。 はなできる。 関数を活用すり 算することが 関数を活用する。 関数を活用する。 関数を活用することがで 関数を活用することがで 関数を活用することがで	り、基本的なに ることによりできる。 ることにより とができる。 ることにより ることにより	)、基本的な問)、応用レベル	
後期	4thQ	9週 10週 11週 12週	適合条件(応力表 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関	現). 演習 数(直交座標系) 数(直交座標系), 数(直交座標系), 数(直交座標系), 数(円筒座標系) 数(円筒座標系)	演習 交座標系),演	適合条件を活用を計算することでは、 エアリーの応力場を計 エアリーの応力場を計 エアリーの応力場を計 エアリーの応力場を計 エアリーの応力場を計算 エアリーの応力場を計算 エアリーの応力場を計算	することによいできる。 によいできる。 に対しています。 できる。 は関数を活ことがは、 は関数をでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 とは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 とは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないと。 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 とは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 とは、 はないでは、 とは、 はないでは、 とは、 はないでは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 と	り、基本的なM ることによりできる。 ることにより ることにより ることにより きる。 ることにより ることにより ることにより	)、基本的な問 )、応用レベノ )、直交座標系 )、基本的な問 )、円筒座標系	
後期	4thQ	9週 10週 11週 12週 13週	適合条件(応力表 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 コアリーの応力関 習	<ul><li>現). 演習</li><li>数(直交座標系)</li><li>数(直交座標系),</li><li>数(直交座標系),</li><li>数(直交座標系),</li><li>数(円筒座標系)</li></ul>	演習 交座標系),演	適合条件を活用を計算することを計算することを対しての応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算の応力場を計算を対している。	するできることによい関質するを活力が関連できる。 こさきのできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできないできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 関数をできるできるできる。 関数ではいますがですが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、また	り、基本的ない ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより	)、基本的な問 )、応用レベノ )、直交座標系 )、基本的な問 )、円筒座標系	
		9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	適合条件(応力表 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 盟 エアリーの応力関 習 後期末試験 試験返却と解説	数(直交座標系) 数(直交座標系), 数(直交座標系), 数(直交座標系), 数(円筒座標系) 数(円筒座標系,直 数(円筒座標系,直	演習 交座標系),演	適合条件を活たを計算することを計算するの応力場の応力場の応力場を計算での応力場を計算である。 エアリーの応力場の応力場を計算である。 エアリーの応力場を計算である。 エアリーの応力場を計算である。 エアリーの応力場を計算である。 エアリーの応力場を計算である。	するできることによい関質するを活力が関連できる。 こさきのできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできないできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 関数をできるできるできる。 関数ではいますがですが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、また	り、基本的ない ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより	)、基本的な問 )、応用レベル )、直交座標系 )、基本的な問 )、円筒座標系	
モデル <u>-</u>		9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	適合条件(応力表 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 コアリーの応力関 選 後期末試験	数(直交座標系) 数(直交座標系), 数(直交座標系), 数(直交座標系), 数(円筒座標系) 数(円筒座標系,直 数(円筒座標系,直	演習 交座標系),演	適合条件を活たを計算することを計算するの応力場の応力場の応力場を計算での応力場を計算である。 エアリーの応力場の応力場を計算である。 エアリーの応力場を計算である。 エアリーの応力場を計算である。 エアリーの応力場を計算である。 エアリーの応力場を計算である。	するできることによい関質するを活力が関連できる。 こさきのできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできないできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 関数をできるできるできる。 関数ではいますがですが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、また	り、基本的ない ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより	)、基本的な同 )、直交座標系 )、基本的な同 )、円筒座標系 )、円筒座標系	
モデルニ		9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	適合条件(応力表 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 盟 エアリーの応力関 習 後期末試験 試験返却と解説	数(直交座標系) 数(直交座標系), 数(直交座標系), 数(直交座標系), 数(円筒座標系) 数(円筒座標系,直 数(円筒座標系,直	演習 交座標系),演 交座標系),演	適合条件を活たを計算することを計算するの応力場の応力場の応力場を計算での応力場を計算である。 エアリーの応力場の応力場を計算である。 エアリーの応力場を計算である。 エアリーの応力場を計算である。 エアリーの応力場を計算である。 エアリーの応力場を計算である。	するできることによい関質するを活力が関連できる。 こさきのできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできないできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 関数をできるできるできる。 関数ではいますがですが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、また	り、基本的ない ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより ることにより	)、基本的な版 )、応用レベル )、直交座標 )、基本的な版 )、円筒座標 )、円筒座標	
モデル <u>-</u>		9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	適合条件(応力表 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 コアリーの応力関 選 エアリーの応力関 選 後期末試験 試験返却と解説 の学習内容と到	選別).演習 一類(直交座標系), 一類(直交座標系), 一類(直交座標系), 一類(円筒座標系), 一類(円筒座標系), 一類(円筒座標系), 一類(円筒座標系), 一類(円筒座標系), 一種(円筒座標系), 一種(円筒座標系),	演習 交座標系),演 交座標系),演	適合条件を活足を計算すること 工更の応力の場を示力の問題リーの応力の応力が 工の応力の応力が表示力の応力が表示が エアルカーのを計算 エアルカーの表示計算 エアルカーの表示計算 エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカー	するできることによい関質するを活力が関連できる。 こさきのできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできないできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 関数をできるできるできる。 関数ではいますがですが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、また	り、基本的なが ることによりできる。 ることによりることにより るころとにより ることにより ることにより ることにより ることにより るころ。 るころ。	)、基本的な「 )、応用レベル )、直交座標 )、基本的な「 )、円筒座標 )、円筒座標	
	コアカリニ	9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 トユラムの	適合条件(応力表 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 コアリーの応力関 選 エアリーの応力関 選 後期末試験 試験返却と解説 の学習内容と到	現). 演習 数(直交座標系) 数(直交座標系), 数(直交座標系), 数(円筒座標系) 数(円筒座標系,直 数(円筒座標系,直	演習 交座標系), 演 交座標系), 演 示 票 の材料の変形を説	適合条件を活足を計算すること 工更の応力の場を示力の問題リーの応力の応力が 工の応力の応力が表示力の応力が表示が エアルカーのを計算 エアルカーの表示計算 エアルカーの表示計算 エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表計が エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの表 エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカーの エアルカー	するできることによい関質するを活力が関連できる。 こさきのできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできないできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 関数をできるできるできる。 関数ではいますがですが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、また	り、基本的ない ることにより ることにより るとができる。 ることにより るきることにより るきることにより るきることにより るきることにより るきることにより るきることにより	)、基本的な同じ、	
モデル <u>-</u>	コアカリミ	9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 トユラム(	適合条件(応力表 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 コアリーの応力関 選 エアリーの応力関 選 後期末試験 試験返却と解説 の学習内容と到	選別) 演習 数(直交座標系) 数(直交座標系), 数(直交座標系), 数(円筒座標系) 数(円筒座標系,直 数(円筒座標系,直 数(円筒座標系,直 数(円筒座標系,直	演習 交座標系),演 交座標系),演 票 の材料の変形を説明できる。	適合条件を活定と を計算すること を計算するの応を を計算するの応を 思の応力場の応力 エアリーの応力場を エアカリーの応力 エアリーの場を エアリーの場 を計算 エアリーのを計算 エアリーのを計算 エアリーのを計算 エアリーのを計算 エアリーのを計算 エアリーのを計算	するできることによい関質するを活力が関連できる。 こさきのできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできないできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 関数をできるできるできる。 関数ではいますがですが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、また	り、基本的ない ることにより ることにより るとことにより るきることにより るきることにより るきることにより るきることにより るきることにより るきることにより るきることにより るきることにより	)、基本的な同 )、直交座標系 )、基本的な同 )、円筒座標系 )、円筒座標系	
モデル <u>-</u> 分類	コアカリニ	9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 トユラム(	適合条件(応力表 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 エアリーの応力関 選 後期末試験 試験返却と解説 の学習内容と到述 学習内容	現).演習 数(直交座標系) 数(直交座標系), 数(直交座標系), 数(円筒座標系) 数(円筒座標系,直 数(円筒座標系,直 数(円筒座標系,直 数(円筒座標系,直	演習  交座標系),演  交座標系),演  交座標系),演  の対料の変形を説明できる。  解し、弾性係数を	適合条件を活定と を計算すること を計算するの応を を計算するの応を 思の応力場の応力 エアリーの応力場を エアカリーの応力 エアリーの場を エアリーの場 を計算 エアリーのを計算 エアリーのを計算 エアリーのを計算 エアリーのを計算 エアリーのを計算 エアリーのを計算	するできることによい関質するを活力が関連できる。 こさきのできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできないできるできるできるできる。 できるできるできるできる。 関数をできるできるできる。 関数ではいますがですが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、また	り、基本的ない ることにより ることにきる。 ることにきるより るきることにより るきることにより るきることにより るきることにより るきることにより るきること	)、基本的な同 )、直交座標系 )、基本的な同 )、円筒座標系 )、円筒座標系	

		はりに作用する力の計算できる。	りつりあい、せん断力および曲げモー	・メントを	4	
		各種の荷重が作用でを作成できる。	するはりのせん断力線図と曲げモーメ	ント線図	4	
		曲げモーメントに。 きる。	よって生じる曲げ応力およびその分布	を計算で	4	
		各種断面の図心、M 曲げの問題に適用で	断面二次モーメントおよび断面係数を ごきる。	理解し、	4	
		各種のはりについて	て、たわみ角とたわみを計算できる。		4	
		多軸応力の意味を認	説明できる。		4	
評価割合						
	試験		レポート	合計		
総合評価割合	85		15	100		
平面応力, 平面ひずみ	20		5 25			
適合条件 25			5 30			
エアリーの応力関数	40		5 45		·	